

長吉志紀神社

本社祭神 長江襲津彦命〔軍神長寿の神〕・事代主命〔五穀豊穡の神〕

境内末社 琴平社〔大物主大神〕・稲荷社〔稲荷大神〕

由来 延喜式によれば大社に列し月次新嘗の官幣に預かる古社である。往時大嘗会に、当社社有地の東六丁に多く繁っていた日蔭蔓を奉っていたころ、平安朝第 51 代平城天皇より日蔭大明神の神号と次の御製を賜る。「神山の日蔭の蔓かぎてふ 豊の明かりのわけてくまなき」以来、日蔭の蔓を神紋とすると伝えられる。第 69 代後朱雀天皇・第 70 代後冷泉天皇の御祈願所でもあった。御鎮座の年代は定かではない。日蔭の蔓とは、常緑つる性シダ植物であり脂肪に富み、吸湿性がないので、傷薬に混ぜて使用されている。また、天皇即位の大嘗祭・新嘗祭等の神事に奉仕する官人が、蔓として頭上から左右に懸け垂れた斎忌のしるしであり、穢から身を守るものとして最も尊いものであった。

長江襲津彦命 第 8 代孝元天皇の孫にあたり武内宿禰の第 6 子。神功皇后が摂政の時から、応神天皇と仁徳天皇に仕え、政治軍事に参与し、誠の心で国に奉仕された。晩年に幽宮をこの長吉の里に定められ二百余才をもって静かにお隠れになり、この里の守り神又軍神長寿の神として神霊幸い永久に鎮座する事になったのである。娘の磐之媛命は、第 16 代仁徳天皇の皇后であり、長江襲津彦命自身は天皇家の外戚にあたる。

事代主命 天照大神の弟建速須佐之男命の 5 番目の孫で大国主命の 2 番目の子供である。神武天皇以来、宮中の八神殿に入り今なお宮中の神殿におごそかに祭られている。この長吉の里においても昔から守り神として鎮まっておられる。又福の神と言われ農作物はもとより漁業も守護する五穀豊穡の神としても崇められている。常に顔に微笑みを浮かべているのは、喜楽円満の相を表わしている。